



写真：岩手県岩手山

ブロック別指導医講習会の実施報告！

令和6年8月30日に東北地区保健所長会総会、保健所連携推進会議に合わせて「指導医講習会(東北ブロック)が開催されました。

座長：仲本光一 岩手県県央保健所長

講師兼記録：新家 利一 いわき市保健所長

今回は昨年に続き対面とZoom併用でのハイブリッド開催となり、私としては5年ぶりに各県の先生方の顔を直接拝見することができ、とても貴重な時間となりました。またこの5年間で新しく若手の先生方も所長になっておられ、とても心強く感じられました。

今回も保健所連携推進会議と同日の開催で参加者数は指導医講習会20名（内Zoom参加10名）でした。

社会医学系専門医研修について

今回は新家の方から①社会医学系専門医制度について、②研修の概要について、③専門医研修の流れについて、④更新について、⑤研修の現状について、⑥ケーススタディ集の活用について、順番に説明させていただきました。

⑤については福島県の制度発足後からの専攻医の研修実績等について説明させていただき、その後、福島県の若手の所長2名から専攻医としての研修の経験等についてコメントをしていただきました。

講師

【いわき市保健所】

保健所長



新家 利一 先生

社会医学系専門医に関する

お知らせ

社会医学系専門医・指導医の更新に必要な単位（K単位、G単位）の取得について

来る10月29日(火)～31日(木)に札幌で開催される第83回日本公衆衛生学会総会の参加者は、鍵学会であれば、G単位が2単位取得できます。また、学会長講演やメインシンポジウム、教育講演に出席することにより最大3単位の選択講習K単位を、指導医講習会に出席することにより1単位の指導医講習会のK単位を取得できます。会場で聴講される方は社会医学系専門医登録番号を記入できるようにご準備ください。なお、前日の10月28日(月)に開催される全国保健所長会総会15:30～17:00 会員協議（*研究協議会）ではG単位が1単位、全国衛生部長会15:30～16:30共通(必須)講習会【感染対策】ではK単位が1単位取得できます。詳細は社会医学系専門医協会HP <http://shakai-senmon-i.umin.jp/>や第83回日本公衆衛生学会総会HPでご確認ください。

県中保健所長の堀切将先生からは、最近専門医を取得された立場から発言していただきました。研修中に突然、保健所長に就任することになり、また指導医と離れた地域に赴任することとなり、戸惑いがあったことや、新型コロナウイルス感染症対応で1年間研修期間を延長し、昨年試験に合格し専門医を取得されたことなどをお話しいただきました。

相双保健所長の安達優真先生からは、現在専攻医として研修中の立場からご発言いただきました。臨床医の時の経験から予防医学・公衆衛生学に興味を持ち、公衆衛生医師に転職したこと、社会医学系専門医の研修項目自体が行政医師に要求されるチェックリストのようになっており、研修がとても役に立っているとの話がありました。安達先生は本年4月に保健所長に就任されています。

お二人のお話から社会医学系専門医制度での研修が実際に今の業務に役立っていることが良くわかりました。両先生の今後益々のご活躍を期待申し上げます。

二人の先生方のお話の時にマイクが不調でZoomでの参加者に音声聞き取れなくなるというハプニングがありました。Zoomでご参加の皆様にはご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんでした。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

サブスペシャリティーについて

これについて色々と意見交換ができました。現在のところ社会医学系専門医制度に参画している学会で専門医制度があるのは日本産業衛生医学会のみであり、日本公衆衛生学会などは認定専門家制度となっており、専門医制度はありません。現状では日本公衆衛生学会認定専門家に認定されてもその資格を活用する場面はほぼない状況です。今後サブスペシャリティーについてどのように考えていくのか社会医学系専門医協会等で議論が必要と思われました。

ケーススタディー集について

令和5年度地域保健総合推進事業の「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査及び実践事業」の成果として作成されたケーススタディー集の活用についてお話をいただきました。

本ケーススタディー集は作成に関わられた方々の熱い想いが伝わってくるような力作であり、様々な場面で活用が可能かと思われます。

私から医学書院から出版されている「アウトブレイクの危機管理(初版並びに第2版)」(阿彦ら)を臨床研修医の保健所研修や学生実習で用いていた経験などを少しお話をさせていただきました。この本も具体的な事例が提示されており、続いてそれについて課題や対応などが記載されているため机上演習に最適でした。

本ケーススタディー集は医学部の保健所実習も含めて、机上演習など問題解決型の実習にとっても良い教材になると思います。できることなら日々の業務の中で感染症や食中毒などの事例を基に自ら研修・実習用の事例が作れるとよいと思っておりますが、現実的にはなかなか大変です。

天気が不安定な中ご参加いただき、参加者の皆様大変お疲れ様でした。私自身これまで指導医講習会についての理解が十分でなかったと反省しております。

東北ブロックの皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

ご報告の作成と講師を務めていただいた新家利一 いわき市保健所長、ご発言いただいた堀切将先生、安達優真先生ありがとうございました。次回は九州ブロックの様子をお伝えいたします。引き続きよろしくお願いたします。

発行責任者：横山勝教（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）